

9月度 例会 山行報告書		報告者	町田 修	参加メンバー	CL岸上薫 SL谷口壮耶 鈴木美穂子 OB:金子 清 津田廣一 吉田有希 町田 修(記)ゲスト:澤田愛 小田祐子 儀間 雅真
個人		報告日	10/22		
山域	北海道 道央の山	山行日	'24年7月25日-28日		
山名	ニセコアンヌプリ・羊蹄山 余市岳・東ヌブカウシヌプリ				
山行目的	親睦 & 百名山登頂記念登山		コースタイム(天候:天気図記号)		

配布先
集会: 12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



25万分の1地図

9/20(金)ニセコアンヌプリ 曇り 13:30五色温泉P発 14:00見晴らし良し1本 15:00山頂 16:00五色温泉着	9/22(日) 余市岳 曇り 4:00MoiwaLodge発 6:10キロロリゾートP発 7:15余市岳登山口 9:20余市岳山頂 11:00余市岳登山口 12:00キロロリゾートP着
9/21(土)羊蹄山 曇り 04:40 GURUGULU発 05:25 ひらふ登山口発 06:25 2合目 07:45 5合目 08:45 8合目 09:45 9合目 10:30 北山発 10:50 羊蹄山山頂着 11:05 山頂発 14:30 京極登山口着	9/23(月) 東ヌブカウシヌプリ 晴れ後曇り 07:00ぎまんち発 09:40登山口発 10:00体温調整 10:35山頂 10:40-50ナキウサギの家 11:30登山口着

〈山行報告〉9/20(金):千歳で現役組と合流、ニセコへ向かう。明日のトレ登山か? 午後1時過ぎ登山口へ。ラジオ体操後、談笑しつつ登りだす。我々3Gのペースより速め。汗をかきつつ見晴らしの良い展望台? で1本。口数は減るも、調子よくペースを保って山頂へ。あまりの寒さに急ぎ写真を撮って、超特急下山した。津田

9/21(土):ひらふ登山口の駐車場に5時10分に着く。岸上、谷口、澤田の3名は下山口まで車を置きに行く。ひらふ登山口まで戻り、追いかけてくる。頭が下がる。ジグザグの急坂を登ると樹木の合間からニセコアンヌプリが見える。9合目まで登ると展望が良い。火口縁までは紅葉と霧氷で白く染まった山肌が美しい。北山で1本取り、10時50分に山頂に着く。山頂は生憎ガスの中、記念写真を撮り、京極コースを下る。下山も岸上、谷口、澤田が先行する。滑りやすい登山道を一気に下る。下山口では先行した3名が笑顔で迎えてくれた。金子

9/22(日): 3Gは観光、以外のメンバー(岸上・谷口・澤田・小田・鈴木)は登山、と2チームに分かれて行動。登山隊は6:10にキロロリゾートP発。登山口まで長い長い林道が続く。登山口過ぎるとすぐに渡渉、滑りやすい箇所がいくつもあった。途中から岸上リーダーよりも背が高い笹が出てきて長いヤブ漕ぎエリア突入。前は見えない、笹が顔にバシバシ当たって痛い、足元はドロドロで滑りやすい。わー! きゃー! と自分含めメンバーたちの悲鳴がたびたび聞こえた。這う這うの体で着いた山頂はガスで真っ白。そして寒い。サッと写真を撮って即座に(転びながら)下山した。鈴木み

9/23(月):儀間夫婦と吉田familyに見送られて「ぎまんち」を出発。千歳空港への移動時間等を考慮し、目的の山を「東ヌブカウシヌプリ」にする。白樺峠から1時間弱で山頂に立つ。山頂から10分程の所にナキウサギの生息地があり、この山の名所でもある。しばらく固唾をのんで待つが音沙汰なく、3Gはそそくさと下山する。根性の現役はその甲斐あり、ナキウサギの姿とその声を確認した。..ちよとした愉快な山行でした。町田

確認(リーダー)
岸上
作成(報告者)
町田

〈リーダー所見〉
今年(は)はスペシャルゲストの儀間さんを迎えて、少し天気不安はあったが、全員で登頂、無事に安全登山が出来たのが何よりでした。来年は暑寒別岳になりますので、体力維持をお願いします」

岸上

9月20日（金）ニセコアンヌプリ写真紀行 津田廣一



キノコ汁と舞茸天むすは旨かった



ニセコアンヌプリ登山口 行くぞ！



展望台？ ニセコの町がよく見える



山頂が見えてきた(調子いいぞ！)



ニセコアンヌプリ(300名山)ゲット！ みんな、いい顔ですね

山頂はガスって何も見えず
(晴れてたら、羊蹄山バックの筈が・・・)
楽しく登れて大満足も、寒くて早々に下山です

ニセコアンヌプリは8年前の6月に登り、今回は2回目だ。ルンルンで登った記憶があり、山の常識外れの午後出発ではあるが、何の心配もしなかった。1時半頃に登りだすが、若干ペースが速く、次第に汗も出てくる。ペースにも慣れて、とりとめもない話をしながら、30分程登った頃、展望台らしい場所で1本とる。休憩している内に汗も引いていく。さすがに北海道、猛暑の愛知とは違うと感じる。一息入れて、ゆっくりと登りだす。標高が上がるにつれ、暑さが和らぎ快適さが増していく。傾斜もゆるくなってくると、目指す山頂が見えてきた。再び傾斜が増して、登りきると頂上だ！山頂はガスって360度のパノラマは裏切られたが、皆の顔に喜びが溢れている。一人の登山者が現れたので、急ぎ全員写真を撮ってもらった。その内、寒く感じるようになってきて急ぎ下山した。山頂の大パノラマは残念だったが、楽しく満足のいく山行であった。



羊蹄山 山頂



ひらふ登山口 出発！！



ニセコアンヌプリ



ゲスト: まさなお君



9合目付近でポーズ！



紅葉の登山道に行く



霧氷で山肌が白く染まる



父釜が見える火口縁まで登る



お疲れさまでした



夕日に映える羊蹄山

9月半ばを過ぎても愛知は35℃を超える猛暑が続いた。新千歳空港に着くと気温23℃。涼しい！羊蹄山は8年前の6月登った以来、紅葉時期の登山は初めて。9合目を過ぎると紅葉と霧氷で白く染まった山肌が綺麗だった。今回、ゲストの儀間さん（ぎまんちオーナー）とご一緒でき更に楽しい登山ができた。来年も北の愉快的仲間たちとご一緒できることを楽しみにしたい。



余市岳と愉快的な仲間たち
(なんだかんだ元気！)



どろんこ道



山頂 真っ白～！そして寒い～！



行きは靴が濡れないように慎重に・・・



帰りはあえて水に入って、どろどろになった靴を洗いました



ヤブ漕ぎエリアの視界



立派なベニテングダケが
たくさん生えていた

この日は観光(3G)と登山(岸上・谷口・澤田・小田・鈴木)の2チームに分かれて行動。前日の夜、岸上リーダーに「登る？」と聞かれ、「登りまーす！」と即答したがこの選択ははたして正しかったのか・・・？ 猛者メンバーに混じりいざ出発。駐車場から登山口まで長い長い林道。さすが猛者たち・・・とつともなく速い！！私の早歩きは彼らののんびり歩きらしい…。登山口すぎるとすぐに渡渉、靴が濡れないように慎重に慎重に渡る。滑りやすそうな箇所がいくつもあり下山時は気をつけようと思った。途中から岸上リーダーよりも背が高い笹が出てきて長いヤブ漕ぎエリア突入。前は見えない笹が顔にバシバシ当たって痛いし道はどろんこで滑りやすい散々な目にあつた。たびたび、わー！きゃー！とメンバーの悲鳴が聞こえる。やっと着いた山頂は真っ白な世界。寒くて長居もできずサッと写真だけ撮って駆け降りる。ヤブ漕ぎエリアで盛大に転びお尻もどろんこに。ヤブ漕ぎエリアを抜けて一安心していたらまたもすつ転ぶ。(あなぜ私は観光を選ばなかったのか…) 下りの渡渉では靴が濡れるとかもうどうでも良くなり、あえてジャブジャブ水に入って靴を洗った。登山口周辺にはたいへん大きくて立派なベニテングダケがたくさん生えていてキノコ撮影タイム。我が登山史の中でトップレベルに大変な山だったが、思い返してみるとなかなかできない経験ばかりだったしみんなで泥んこになりながらわーきゃー言って歩いたのもなんだかとも楽しかった！これぞ三百名山！思い出に残る登山となった。



しーっ！どっかいているんだよね！
ナキウサギの宿



白樺峠からスタート



白樺林で整列！



山頂です



東ヌプカウシヌプリ1252m、何と長ったらしい名前？・・・アイヌ語で「平原の上に聳える山」、なるほど東ヌプカウシヌプリは上士幌の大平野から大雪へ続く、入り口の一画なんです。「北の愉快的仲間たち」で全員で登るには最適選択だった。羊蹄山・余市岳、連日の強行山行のクールダウンにはモッテコイの山でした。この山の北側に白雲山があり、teiteiちゃんが紗月ちゃん（吉田さん夫婦の長女）を背負って、楽しんでに闊歩していたのを昨日のように思い出します。下山して千歳空港へ向かいました。

儀間さん、有希さんの感想



ぎま まさなお
〈儀間雅真〉

初めての7~8時間レベルの登山で不安も多かったのですが、ちょうどよいペースで歩いていただけたため、最後は足も上がらないような状態でしたが無事に下山することができました。お陰様で少し自信が付き、翌週の羅臼岳も難なく登りきることができました。羊蹄からの景色も時折晴れ渡る場面もあってとても楽しむことができました。そこからのぎまんちでの打ち上げも一緒に登山を共有したこともあってこれまで以上に楽しく、美味しい夜でした。

また来年も宜しくお願い致します！

〈吉田有希〉 毎年この季節になるのを本当に楽しみにしている。北海道へ来てから1人登山が多いからだ。2週間ほど前にギックリ腰をやってしまい、腰に違和感が残るものの登れるとこまで登ろう！と意を決する。しかし、羊蹄山の山歩きが楽しすぎてアドレナリンが出てくるのか、腰の痛みは感じず終始快適に歩けた。下りは少々ハードで足がガクガクになりかけたが、時間を共有できる仲間がいることは最高だ。そして「ぎまんち」での恒例のジンギスカンパーティーは、帯広の人気店じんぎすかん北海道のジンギスカン。みんなで食べるジンギスカンはこれまた最高だった！「北の愉快的仲間たち」が毎年北海道へ来てくれることが私の励みにもなり、感謝の気持ちでいっぱいである。

ウポポイとアイヌ 町田 修

ウポポイ=アイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」



北海道と云えばアイヌ・・・！というイメージが昔から私の頭の中にあった。具体的には山の名前だ。例えば、ペテガリ岳・ニセコアンヌプリ・トムラウシ山・ニペツツ山・カムイエウチカウシ山・・・名詞として身近であり、その名の山に登って、北海道の山に登ったんだな・・・と思うぐらいだった。そこから先のアイヌ文化との触れ合いは無かった。時々コンパで北大の山岳部歌「山の四季」など、酔って歌っていたが、文化のふれあいとは程遠かった。

今回、ちょっとリスクな余市岳は現役メンバーに任せ、3Gは白老の「ウポポイ / 民族共生象徴空間」を訪ねた。まず訪ねたのは生活していた家(チセ)、川上側に神の窓(カムイヅヤル)川下側に入り口がある。神(カムイ)を敬う生活の様子が分かり易い。次に、体験交流ホールシアターでアイヌの歌や踊りを観賞した。博物館で「ことば」、「世界」、「暮らし」、「歴史」、「しごと」、「交流」の6つのテーマでビジュアルに展示音声紹介してくれる。アイヌの民はこの世のあらゆるものに〈魂〉が宿っていると考えている。なかでも、動物や植物など人間に自然の恵みを与えてくれるもの、火や水、生活用具など暮らしに欠かせないもの、天候など人間の力が及ばないものを〈カムイ〉として敬まう。ほんの一時の見学だったが、アイヌの懐の山々に登る岳人として、カムイの精神を少しお裾分けいただいで、これからも北の山々を楽しんで行きたい気分になった。 町田

